

# 第12回マーチング&バトンステージ・イン・オカヤマ 審査規定 ～バトン・カラーガードの音部～

## 1. バトン部門審査内容（全ての内容を 北田 有加先生が担当）

### (1) 作品完成度

①実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドロップやミスのない到達度の高い完成された作品</li> <li>・個々の責任意識が高く、グループプレーや協調性の高い演技</li> <li>・グループとしての同調性</li> <li>・正確なポジションワークと困難度あるステージングの展開</li> <li>・リズムやタイミングの統一性、多様性</li> </ul>
②表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のテーマを主張した、視聴覚の調和された表現</li> <li>・フロア、立体、空間によるステージングデザイン</li> <li>・ユニゾンやアンサンブル、ハーモニーのバランス</li> <li>・観客への作品アピールやショーマンシップ</li> <li>・プロジェクションや自信ある演技、リカバリー能力</li> </ul>

### (2) 全体的効果

①作品効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確なテーマとプログラムコンセプト</li> <li>・集団美が活かされた作品</li> <li>・創造的で独創的な多様性あるプログラム構成</li> <li>・視覚と聴覚の一体性</li> <li>・衣装やプロップの色彩、デザインと作品との調和</li> </ul>
②演技効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の理解、解釈</li> <li>・音楽の理解、解釈</li> <li>・バトンとボディーワークによるデザイン</li> <li>・フロア、立体、空間によるデザイン</li> <li>・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク</li> <li>・ミュージカルティ、観客への作品アピールやコミュニケーション</li> </ul>

### (3) パフォーマンス

①バトン トワーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンテクニックの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・トワーリングの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブなバトンの使い方</li> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・トワーリングリズムと音楽リズムの調和</li> <li>・バトンとボディーワークやステージングの困難度ある組み合わせ</li> </ul>
②ボディーワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディーワークの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・ボディーワークの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブな動きやアングル</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・ダンスリズムと音楽リズムの調和</li> <li>・ボディーワークとバトンやステージングの困難度ある組み合わせ</li> </ul>
③ステージング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムーブメントの正確さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・スムーズで困難度あるフォーメーションの展開</li> <li>・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク</li> <li>・フロアと立体、空間のステージングデザイン</li> <li>・フロアデザインと音楽の調和</li> <li>・ステージングとバトンやボディーワークの困難度ある組み合わせ</li> </ul>

## 2. Div1 の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 各内容(1)～(3)についてA～Eの5段階評価をし、  
Aが5点・Bが4点・Cが3点・Dが2点・Eが1点に  
換算し、その合計点を集計する。その後 15 点満点を100点満点に換算  
(20/3 倍して、小数点以下四捨五入の整数値)
- (3) 100 点満点中、75 点以上を金賞、74 点～55 点を銀賞、  
54 点以下を銅賞とする。
- (4) 同一カテゴリーで複数団体のエントリーがあった場合、もっとも  
優秀な1 団体に審査員特別賞を授与する

## 3. Div2 の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、申告時間を遵守すること。
- (2) 審査方法は、Div1 に準ずる。(評価あり、点数なし)
- (3) 同一カテゴリーに複数団体のエントリーがあった場合、もっとも  
観客を魅了したと判断された1 団体にフェスティバル賞を授与する。

## 4. カラーガード部門の講評内容は

- (1) 全体的効果 篠原 修先生
- (2) ボディーワーク 北田 有加先生(予定)
- (3) カラーガードの技術 山崎 浩先生  
(全員持ち点5点)とする
- (4) Div1 では 15 点満点中、バトンと同様に 100 点化して、金銀銅賞を決める。  
同一部門から2団体以上の出演があった場合、最も優れた団体に審査員特別賞  
を授与する。  
Div2 はバトンの Div2 の審査に準ずる

※すべての部門でICレコーダ審査を行う。